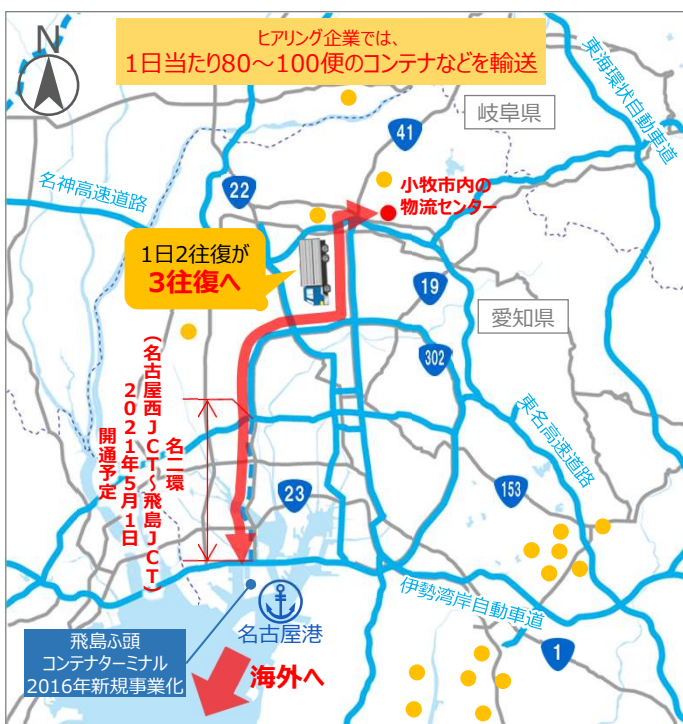




名古屋港のコンテナ貨物

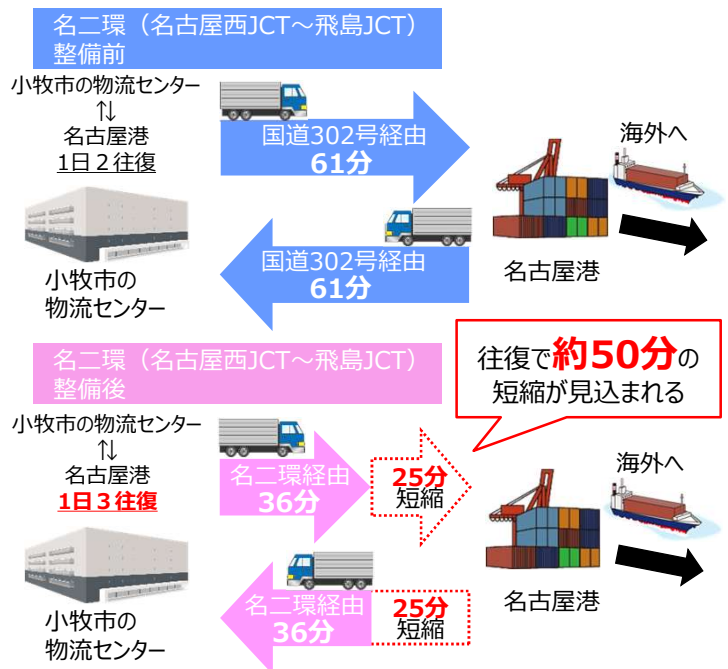
## 名古屋港への物流の動き



- 名古屋港飛島ふ頭のコンテナターミナル整備により、海外向けのコンテナ貨物取扱量は、約20年で3倍に増加。また、飛島ふ頭取扱コンテナの約4割が小牧・岐阜方面へ輸送。
- 名二環 (名古屋西JCT~飛島JCT) の整備により、所要時間が短縮され、小牧市~飛島ふ頭間の物流の回旋数が増加 (1日2往復→3往復) と物流が効率化。
- 名古屋環状2号線全線開通と飛島ふ頭のコンテナターミナル整備※で、物流機能の強化による相乗効果の発揮が期待。

※飛島ふ頭のコンテナターミナル整備：水深15m岸壁 (耐震)

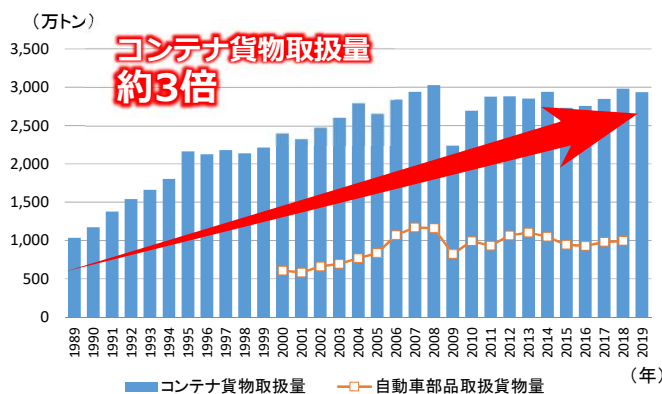
## 名古屋港への物流のイメージ



所要時間短縮により、2往復⇒3往復

※名二環 (名古屋西JCT~飛島JCT) の所要時間は設計速度 (60km/h) にて算出  
国道302号の所要時間は平成27年度全国道路・街路交通情勢調査結果より算出

## 飛島ふ頭のコンテナ貨物取扱量の推移



出典：名古屋港管理組合「名古屋港統計年報」  
※公表されている自動車部品貨物取扱量は2000年からのみ

## 企業の声

飛島ふ頭と小牧市の物流センター間で、1日当たり80~100便のコンテナなどを輸送しています。

トラックドライバー不足を補うため、物流の効率化を検討しています。名二環 (名古屋西JCT~飛島JCT) の整備により、1日の回旋数が2回から3回に高められます。

[企業ヒアリング結果より]

